

令和元年度 宝木小学校 学校評価書

※ 網掛けのない部分が評価計画、網掛けの部分が評価結果を受けて記入する。

1 教育目標（目指す児童像含む）

(1) 基本目標

心身ともに健康で、自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる判断力、新しい時代を拓く開拓者精神^{フロンティアスピリット}に基づく実践力をもち、夢に向かって心豊かにたくましく生きる児童を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

たくましい子（心身共に健康で、強い意志をもって粘り強く行動する）

よく学ぶ子（基礎学力を確実に身に付け、自ら考え主体的に学習する）

やさしい子（互いを尊重し、思いやる心を大切にして他とかかわり、ルールやマナーを守り、適切に判断・行動する）

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

やさしさ 勇気 喜び そして 夢

学校のシンボルとなっているメタセコイアの木がある。絶滅したと考えられていたこの木は、中国で発見され現在に至ることから、「生きている化石」とも言われる。メタセコイアには壮大な過去があり、そして今がある。そして、未来へと、その生命を繋いでいく。力強い生命力（生きる力）に、宝木小の子どもたちの成長を重ね合わせたい。

夏には木陰をつくり、やさしくそっと子どもたちを包むメタセコイア。その姿のように、子どもたちの心に「やさしさ」を育てたい。前に進もうと努力するときは、力強く根を張るメタセコイアの「勇気」を感じさせたい。メタセコイアの前で、共に遊ぶときに広がる笑顔と喜び、日々の学習や活動での、「できた喜び」「分かった喜び」「伸びた喜び」を大切にしたい。そして、メタセコイアが大空に向かってぐんぐん伸びる姿に、未来への「夢」をえがく子どもたちに育つことを願いたい。

メタセコイアが教えてくれる「やさしさ 勇気 喜び 夢」、それは、メタセコイアと共に成長してほしい宝木小の子どもたちの姿であり、本校教育活動の理念である。

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

○(1) 子どもにとって、わくわくする楽しい学校

・アプローチⅠ：授業で勝負！ 学力向上を目指した授業づくり

・アプローチⅡ：Ⅱ：認め励まし、教え導く！ 規律と活気、思いやりのある学級づくり

○(2) 保護者にとって、安心して子どもを通わせられる学校

・アプローチⅢ：保護者とスクラム！ 子どもたちの健全な成長を目指す協働体制づくり

○(3) 地域にとって、信頼できる開かれた学校

・アプローチⅣ：地域の学校として！ 地域の皆さんとの強いきずなづくり

○(4) 教職員にとって、自分の力を発揮できる、働きがいのある学校

・アプローチⅤ：先生もいきいきと！ 教職員一人一人が活躍する学校づくり

[陽西地域学校園教育ビジョン]

自己の「よさ」を活かし、粘り強く頑張る子どもの育成 ―社会的自立を目指すキャリア教育を通して―

4 教育課程編成の方針

(1) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法、小学校学習指導要領等の教育関係諸法令の示すところに従うとともに、栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会の方針等を踏まえて教育課程を編成する。また、宇都宮市の施策である小中一貫教育を、有効かつ持続可能な方法を探りながら確実に実施する。

(2) 地域や学校の実態及び児童の心身の発達の段階や特性を考慮しつつ、児童の人間として調和のとれた育成を目指して、確かな学力、豊かな心、健やかな体のバランスを重視した教育課程を編成する。

(3) 本年度の本校の教育目標、学校経営の方針、指導の重点及び具体策、学校課題等の具現化を図るとともに、地域社会や保護者の実態を考慮して教育課程を編成する。

(4) 「これからの教育課程の理念」を踏まえ、「社会に開かれた教育課程」編成のため、カリキュラムマネジメントの視点から一貫性・相互関連性のある教育課程・各種年間指導計画を作成し教育活動を展開する。

①各教科の教育内容を相互の関係で捉え、教科横断的な視点で内容を組織的に配列する。

②子どもたちの姿や地域の現状等に基づき、教育課程をPDCAサイクルで実施改善する。

③教育内容と、地域等の外部も含めた人的・物的な資源を効果的に組み合わせる。

5 今年度の重点目標（短期的視点）※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】
・「やさしさ 勇気 喜び そして 夢」を軸とした特色ある教育活動の推進
【学 習 指 導】
・学年や個の実態に応じた実効的な取り組みの学校全体での実践。
○校内研修サポート事業と連携した新学習指導要領を見据えた授業研究会による授業力向上。
・考えを書く、まとめるなど多様な活動を通した書く力の向上。
・学力調査等を活用し、学習に係る課題と要因をはあくした上での共通実践の工夫。
・「通常学級での特別支援教育」の視点に立つ多様性への対応。
【児 童 生 徒 指 導】
○生命と人権の尊重を軸とした、いじめを許さない態度や実践力の育成（いじめ〇運動と保護者への啓発）
・体験活動などの充実による、宮っ子心の教育の推進
○基本的生活習慣の形成（「児童のやくそく」の徹底）
【健康（体力・保健・食・安全）】
○サーキットや周回走,1分間運動の実施と市ミニマムの達成に向けた段階的な指導。
・運動委員会との連携による各種大会、外遊びの取り組み。
・喫煙防止,薬物乱用防止,がん予防教室,救命手当教室等の出前授業の実施。
○9年間の段階を踏んだお弁当の日の取り組みと食育や・安全な給食指導の充実。
○早寝早起き朝ごはんの啓発および養護教諭との連携した取り組み。
・家庭や地域と連携した登下校の見守りと、安全な学校生活や危機対応訓練,生きる力をはぐくむ安全教育の充実。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所の下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	授業では、教材やワークシート、展開を工夫することで、児童がめあてに沿って進んで学習に取り組めるようにしていく。「学び合い」や「振り返り活動」を効果的に取り入れることで、 <u>児童が考えたり話したりする機会を確保し、主体的に学ぶ態度を育成する</u>	B	【達成状況】 教職員の肯定的割合 78.4%(88.9%) 保護者の肯定的割合 86.9%(85.4%) 児童の肯定的割合 89.8%(85.1%) 【次年度の方針】 ・学習課題をはっきり理解させた上で、学び合いや振り返り活動を効果的に取り入れ、児童が考えたり話したりする機会を確保し、主体的に学ぶ態度を育成する。また、学力向上に向けた授業サイクルを確立するため、PDCAサイクルを大切にする。

目 指 す 児 童 の 姿	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	学級経営の中で、毎日生活を共にする級友同志が互いに認め合い、相手を尊重し、思いやりの心を醸成できるような場や時間を設定する。 縦割り班活動班や児童会活動、行事などを通して、お世話になった人への感謝の気持ちや、お互いの良いところを認め合う場、異年齢交流の場を設定する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.9%(%) 保護者の肯定的割合 89.7%(%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(%) 児童の肯定的割合 84.8%(%) 【次年度の方針】 今年度に引き続き、学級経営の中で毎日生活を共にする級友どうしが互いに認め合い、相手を尊重し思いやりの心を醸成できるような場や時間を設定する。 縦割り班活動など異年齢交流ができる場を多く設けることで、学年をまたいだ認め合いの場が設定できるようにする。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>きまりの徹底については、学校全体、全員指導の体制で取り組んでいく。</u>教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範することで校内の言語環境を整えていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 81.1%(91.7%) 保護者の肯定的割合 87.2%(89.4%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 80.5%(79.2%) 【次年度の方針】 ・<u>きまりの徹底については、学校全体、全員指導の体制で取り組んでいく。</u>教職員自らが適切な言葉づかいを心がけ、率先垂範することで校内の言語環境を整えていく。 ・児童の実態に合わせた月2回の生活目標の設定をする際に、重点的に児童に取り組ませたい事項に関しては継続的な目標として設定するなどして、児童に意識づけできるようにしていく。
	A 4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 地域肯定回答 85%以上	<u>児童会中心に児童の自発的なあいさつを促す運動をする。</u>教職員が率先してあいさつをするとともに、称賛し児童の意欲を高める。また、家庭と連携した取組を継続する。<u>陽西地区地域学校園であいさつ運動がさらに活発に行われるようにしていく。</u>	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 83.8%(91.7%) 保護者の肯定的割合 77.9%(75.7%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(85.7%) 児童の肯定的割合 86.2%(90.4%) 【次年度の方針】 ・児童会を中心に児童の自発的な挨拶を促す運動をする。 ・教職員が率先して挨拶をすることで児童の手本となるようする。 ・宝木小のきまりとして、あいさつの基本を設定し、児童に定着をさせることで、あいさつの活性化につなげるようにしていく。
	A 5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	各種教育の基本年間計画に沿って目標を設定しあきらめずに取り組む態度を育成する。児童指導においては月2回の生活目標の検討会を設定して重点的に指導し、継続指導する。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 75.7%(%) 保護者の肯定的割合 73.6%(%) 児童の肯定的割合 86.6%(%) 【次年度の方針】 ・各種教育の基本年間計画に沿って目標を設定し、「目標」から「振り返り」までのつながりを意識して指導することで、あきらめずに取り組む態度を育成する。

A 6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>鉄棒検定カードを児童の実態に合った内容・形式のものに修正し</u>,実施することで,運動への意欲を高め,運動習慣の定着を図る。昼休みの外遊びを励行し,運動時間の確保,運動習慣の定着を図る。 <u>担任と学校栄養士、地域生産者が連携し、給食時や学級活動の時間を活用して児童の「食」に関する意識を高める。</u> 食の楽しさを体験したり,味覚を育てたりできる献立や食材,食べ方を工夫するとともに,ホームページや各種たよりで給食の様子を保護者に伝え,家庭と連携して偏食が少なくなるよう児童を励ましていく。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 86.5%(%) 保護者の肯定的割合 86.2%(%) 地域住民の肯定的割合 92.3%(%) 児童の肯定的割合 88.2%(%) 【次年度の方針】 ・健康生活の振り返りを実施し,遊び方の提示や場の設定,ルールの見直しをすることで1日の運動時間の確保を目指し休み時間の外遊びを励行する。また,体育だよりをもとに家庭への情報の提供を行い,家庭の関心を高めていく。 ・地域生産者によるビデオレターの校内放送(食育週間),行事食のお知らせの配布等によって児童の食の意識の向上を図る。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>キャリア教育の推進により夢や目標をもって社会に貢献する人に成長しようとする意欲を育てる。</u>	【達成状況】 A5の数値参照 【次年度の方針】 次年度より実施される「キャリアパスポート」を適切に活用する。特に保護者等からの記入欄を充実させ,児童自身が夢や目標を持てるよう励ましていく。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	打ち合わせを綿密に行うことで ALT との連携を充実させ,英語に親しみ進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 83.3%(%) 児童の肯定的割合 83.5%(%) 【次年度の方針】 全員が発表をしたり友達同士でやり取りをしたりする場数を増やすことで,外国語でコミュニケーションをとることに自信をもてるようにする。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	社会科や総合的な学習,地域行事への参加等を通して,宇都宮の良さに視点をあてた指導を取り入れる。	【達成状況】 教職員の肯定的割合 75.0%(%) 保護者の肯定的割合 52.5%(%) 児童の肯定的割合 74.2%(%) 【次年度の方針】 高学年では,新しく「宇都宮学」が総合的な学習で地理扱われるようになるので,指導を通して宇都宮のよさを発見できる場とする。中学年では,宇都宮学の学習内容を踏まえて社会科学習の充実を図る。低学年においては地域を学ぶ学習を通して,自分の住む地域への関心を高めるようにする。全学年を通した学習を系統的に実施することで,児童が宇都宮のよさを実感できるように配慮していく。

	A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	タブレットの活用,図書の充実により学習への活用を促すとともに,出前授業等を活用し,系統的な情報モラル教育の充実を図る。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 83.8%(%) 保護者の肯定的割合 63.1%(%) 児童の肯定的割合 80.2%(%) 【次年度の方針】 本校職員は ICT を十分に活用しているといえるが、プログラミングも含めて授業等で行ったことを、お便りや HP への掲載により、保護者に向けてのアピールを行う。
	A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	地域のボランティアとの交流や学校行事などを通して、<u>お世話になった人への感謝の気持ちや、いたわりの心を育てる。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 91.9%(%) 保護者の肯定的割合 89.7%(%) 児童の肯定的割合 84.8%(%) 【次年度の方針】 わかくさ特別支援学校の先生の指導支援により福祉学習を充実させる。 4 学年総合的学習の福祉学習や児童会委員会ボランティアのわかくさ交流、多くの地域ボランティアとの関わり等から、地域を愛する心情を育てていく。
	A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 教職員肯定回答 85%以上	水や電気などのエネルギーを大切にすること及び環境問題,防災等の「持続可能な社会」について関心をもたせるような指導を教科等の指導の中に取り入れる。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 45.9%(%) 児童の肯定的割合 83.0%(%) 【次年度の方針】 教科の中で環境問題や防災等の「持続可能な社会」について関心をもたせるような指導を取り入れるとともに,普段の生活においても節水や節電等を意識できるように働きかけていく。
	B1 児童は自ら考えたり、友達と話し合ったりしながら問題を追究しようとしている 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>授業で全員が自分の考えをもつ場を意図的に設定し、考える習慣とスキルを身に付けるとともに、自分の考えをノートに書くことで表現力も育成していく。</u> <u>ペア学習やグループ学習を意図的に設け、共に学ぶよさが実感できるようにする。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 90.6%(%) 保護者の肯定的割合 85.6%(%) 児童の肯定的割合 88.7%(%) 【次年度の方針】 ・自分の考えをもつ時間を十分に確保し、考える習慣とスキルを身に付けるとともに、自分の考えをノートに書くことで表現力も育成していく。ねらい、話し合う観点をはっきりさせてから、必要な場面でペア学習やグループ学習を意図的に取り入れる。
目指す学	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	適応部会に全校から集まる課題に対して、校内支援委員会を有効に機能させ個に応じた適切な支援策が講じられるようにする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(%) 【次年度の方針】 ケース会議,校内支援委員会での検討を通して,より支援内容の充実を図っていききたい。また適応部会で支援に必要となる情報の集約を図っていききたい。

校 の 姿	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	いじめ防止の基本理念に基づき、<u>教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育ててく。</u>いじめゼロ集会の開催に加え、今年度から児童指導だよりの発行を行っているので、次年度以降も引き続き、学校の状況や児童に実態に目を向けたものにも取り組んでいく。	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(100.0%) 保護者の肯定的割合 79.0%(83.2%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 95.9%(99.5 %) 【次年度の方針】 ・いじめ防止の基本理念に基づき、<u>教育活動全体を通して思いやりや助け合いの心を育ててく。</u> ・児童の言動をこまめに見ることや、学年間の情報の共有など教職員の学級経営力向上を目指し、いじめの早期発見・早期対応につながるような取り組みをしていく。
	A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>居がいのある受容的な学級づくりに努めるとともに、配慮の必要な児童の対応にチームであたり、課題の早期発見早期対応ができるようにする。</u>	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(%) 保護者の肯定的割合 86.2%(%) 児童の肯定的割合 94.9%(%) 【次年度の方針】 <u>子ども同士の結びつきを深められるような学級づくりに努めるとともに、配慮の必要な児童の対応については学年・チームであたり、課題の早期発見早期対応ができるようにする。</u>
	A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	日本語指導のスタッフと連携を密に取りながら、必要に応じて外部機関の協力を要請するなどして言葉、文化の壁を超えた適切な支援をする。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(%) 【次年度の方針】 日本語指導講師や、学校ふれあい日本語教室支援者との打ち合わせを密に行い、児童の言葉の成長に合わせた適切な支援を行えるようにする。
	A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	活気ある学校づくりを推進できるよう、学習活動や行事などの活動のめあてを明確にして、児童の主体的な活動を促す。教職員も互いを尊重しながらチームでの教育活動を推進する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 94.6%(100.0%) 保護者の肯定的割合 90.5%(92.5%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 87.0%(89.6 %) 【次年度の方針】 活気ある学校づくりを推進できるよう、宝木の子プロジェクトの活動の改善・充実を図る。また、児童一人一人が自分の学び・成長を実感できるように、学習活動や行事などのめあてを明確にして、主体的な活動を促す。さらに、互いに協力・尊重し合いながら、教職員も一人一人が活躍できる教育活動を推進する。

A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	授業研究会や「一人一授業」を継続実施し、自分の授業を見直し授業を見る目を鍛えることで教師の授業力を向上させる。習熟度別学習の実施や教材を充実させることで、きめ細かな指導を推進するとともに、<u>児童の思考や理解に寄り添った支援を実施していく。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 94.6%(97.2%) 保護者の肯定的割合 84.8%(83.4%) 児童の肯定的割合 95.2%(96.3%) 【次年度の方針】 ・新学習指導要領での授業研究や一人一授業を実施し、多くの授業を参観して授業を見せ合うことで授業の改善を図る。また、引き続き習熟度別学習の実施や教材研究の充実を図り、きめ細やかな指導を推進して、児童の思考や理解に寄り添った支援を実施する。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	学校組織の中で機能的に専門性を発揮していくために、職員一人一人が自分や同僚の職種や役割をよく理解できるよう努めていく。互いに尊重し合いながら組織の中で責任を果たすことができるよう、業務の明確化と整理を図っていくことで、チームワーク良く教育活動を推進し学校力を向上させていく	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(97.2%) 【次年度の方針】 職員一人一人が自分や同僚の職種や役割をよく理解できるよう努め、互いに尊重し合いながら組織の中で責任を果たすことができるよう、業務の明確化と整理を図っていくことで、チームワーク良く教育活動を推進し学校力を向上させていく。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	ゆとりある日課の中で、子どもと共に過ごす時間の確保をさらに工夫するとともに、事務や会議等の効率化や業務の見直しを図ることで働き方改革を推進する。	A 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.2%(77.8%) 【次年度の方針】 教職員の勤務時間管理を厳密に正しく行い、本校の課題を明確にすることから、業務の改善策を講じていくようにする。事務や会議等の効率化や業務の見直しにより、働き方改革を積極的に推進する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	<u>乗り入れ授業や生徒指導連絡会等の小中学校職員の交流を深めるとともに、キャリア教育を中心に据えたテーマに迫っていく。地域学校園における児童の実態から各部会における目標を設定し、実践することで、各部会活動の充実を図る。また、全体研修会や教科部会も効果的運営に努める。</u>	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.1%(91.7%) 保護者の肯定的割合 81.6%(79.3%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(92.3%) 児童の肯定的割合 90.7%(89.0%) 【次年度の方針】 効果的な取り組みである、乗り入れ授業や生徒指導連絡会等の小中学校職員の交流を引き続き行い、相互理解を深める。また、全体研修会や教科部会のあり方を見直し、改善を図る。

A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 地域肯定回答 85%以上	魅力ある学校づくり地域協議会やPTA、地域社会との連携をさらに推進し、社会に開かれた教育課程の実現に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 100.0%(97.2%) 保護者の肯定的割合 86.0%(91.1%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(100.0%) 児童の肯定的割合 88.2%(90.8%) 【次年度の方針】 魅力ある学校づくり地域協議会やPTA、地域社会と連携を深め、様々なボランティア等の活用により、よりよい学校教育が行われるようにするとともに、社会に開かれた教育課程の実現に努める。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携事業計画一覧」に沿って、カリキュラムマネジメントを進め、連携事業を推進する。	B 【達成状況】 A22の数値参照 【次年度の方針】 今年度の活動状況を踏まえ、「外部との連携を図った教育活動計画一覧」および「地域連携授業計画一覧」の見直しを図る。また、それらをもとに、次年度のカリキュラムマネジメントを推進する。
A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	清潔にする意義や清掃の仕方を理解させ、清掃活動に進んで取り組む児童を育てることに努める。きめ細やかな清掃指導を行うため、掃除場所のローテーションを揃え、オリエンテーションの時間を設ける。 さらに安全点検と修繕の適切な実施により安全な環境づくりに努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 97.3%(%) 保護者の肯定的割合 87.8%(%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(%) 【次年度の方針】 安全点検の確実な実施と速やかな修繕により安全な環境づくりに努める。地域にも開放する体育館や校庭の安全管理には特に気を配り、1年間通して、けがなく運動に親しめるような環境づくりをしていく。 児童の清掃の様子も事前事後に必ず教師が点検することを徹底し、環境美化に努める。
A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	予算の有効な配分により、ICT機器や図書等の整備を推進するとともに、活用されやすい環境づくりに努める。	B 【達成状況】 A10の数値参照 【次年度の方針】 タブレット等の使用を進める中で、使用後には元あったように戻したり、トラブルが起きた場合の報告を迅速に行ったりすることで使用されやすい環境を維持する。また、効果的な使用法を紹介し、共有することで一層の活用を引き出す。

	B2教職員は、児童指導上の課題についてチームで情報を共有しながら複数の目で、児童一人一人の良さを見取り、協力して解決に努めている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	毎週の児童指導に関する打ち合わせや学年会、学校生活適応支援部会（適応部会）等で確実な情報の共有を行い、学年主任や児童指導担当者等のチームリーダーと協力して課題の解決に努める。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 100.0%(%) 保護者の肯定的割合 81.7%(%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(%) 児童の肯定的割合 84.2%(%) 【次年度の方針】 ・今年度同様、毎週の児童指導に関する打ち合わせや学年会、学校生活適応支援部会（適応部会）等で確実な情報の共有を行い、学年主任や児童指導担当者等のチームリーダーと協力して課題の解決に努める。また、学年間での情報共有を密にすることで、より児童一人一人に迅速で、きめ細やかな対応ができるようにする。
本校の特色・課題等	B3 児童像実現のための、本校宝木の子プロジェクト（やさしさ・勇氣・喜び・夢）が主体的・積極的に推進されている。 【数値指標】 児童肯定的回答 85%以上 保護者肯定回答 85%以上	宝木の子プロジェクトの教育活動の重点的活動を絞り込み、研修サポート事業の継続や頑張る学校プロジェクトの活用を推進し、さらに特色ある活動の改善・充実を図る。また、学校の取組についてさらに保護者に情報の発信をしていく。	B 【達成状況】 教職員の肯定的割合 100.0%(%) 保護者の肯定的割合 86.8%(%) 地域住民の肯定的割合 100.0%(%) 【次年度の方針】 新学習指導要領の完全実施による新しい教育内容を、宝木の子プロジェクトの教育活動の重点と関連させながらカリキュラムマネジメントをすすめる。研修サポート事業の継続や頑張る学校プロジェクトの活用をさらに推進することにより、特色ある教育活動を工夫する。学校の取組についてさらに情報の発信に努めていく。

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

昨年度、向上が見られた A4「児童は時と場に応じたあいさつをしている」において教師と児童のスコアがやや低下した。児童会を中心としたあいさつ運動を継続し、地域学校園での小中交流も実施することで一定の成果はあったが、日常的に粘り強く指導をすることで、定着を図っていく必要がある。本校の特色でもある、協力心旺盛なスクールガードと連携しながら指導していくことで効果を上げていきたい。宇都宮学や ICT の活用、英語を使ったコミュニケーション等、新学習指導要領に関わる新項目については、全般的に評価が低い。具体的な取り組み方について研修をすすめ、その様子を保護者や地域にも発信することが大切になってくる。学校全体で積極的にチャレンジする雰囲気作りも重要である。校内研修サポート事業を継続し実質3年目として、実りある授業研究を進めることができています。新学習指導要領に関わる内容について、カリキュラムマネジメントを着実に進めながら、学校全体の研究の方向性を明確にし、一人一人の職員が課題意識を明確に持って研究を深めていくことが成果につながる。教員の授業力の向上により、学習時の規律規範作りを徹底することや、学び合いの成立に向けた学習形態の工夫をすることを通して、学力向上の方策を講じていく必要がある。

7 学校関係者評価

児童のあいさつや交通ルール順守の徹底について、より重点を置いて指導していく必要性が明らかになった。今年度もボランティアの方々のご協力により、幅広い活動で様々な支援が効果を上げている。そのような外部の方と接する機会を最大限に生かしていくことで、教育効果を上げていくことが可能であろう。また、本校では、地域連携教員とコーディネーターで連携し、地域ボランティアによる円滑で充実した学校教育支援がなされてきた。魅力協による「ながら見守り活動」の取り組みが始まるなど安全対策や、フラッグアート制作、寺子屋といった家庭教育への働きかけも盛んにおこなわれている。しかし、児童の家庭生活面の充実を懸念していることも数値となって表れている。スマホ依存、SNS によるトラブルといった今日的な課題も散見される。本校の教育活動における取組の様子は、学校だよりやHP等を通して保護者や地域に適切に発信されているが、学校の取り組みが保護者や地域に十分に理解されていない面もみられる。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

新学習指導要領の完全実施に向け、確実な取り組みが期待されていることが明らかになった。キャリア教育の充実、ICT活用能力の育成とプログラミング学習、宇都宮学、英語によるコミュニケーション能力の育成など取り組むべき課題は少なくない。一方で、本校の特色でもある地域との連携活動中でも、あいさつや交通ルールの順守、思いやりの心の育成など、生活の基盤づくりに関わる課題も明らかになった。インターネットが家庭生活に深く入り込んできた現代ならではの課題も多くみられるようになってきている。

家庭、地域の協力を得ながら生活の基盤づくりをすると同時に、互いに認め合い、相手を尊重しあう心を育てていくことが肝要である。学びに向かう姿勢づくりも重要な課題である。学習時の規律規範作りを徹底することや、学び合いの成立に向けた学習形態の工夫をすることを通して教員の授業力向上を図っていくためにも、学校のテーマを明確に設定し、そこから個人の課題を設定し研修を深めることが有効な方策としてあげられよう。

学習面においても生活面においても、次年度はさらに学校と家庭の連携を強化し、具体的な対応を一歩ずつしかし確実に進めていく必要がある